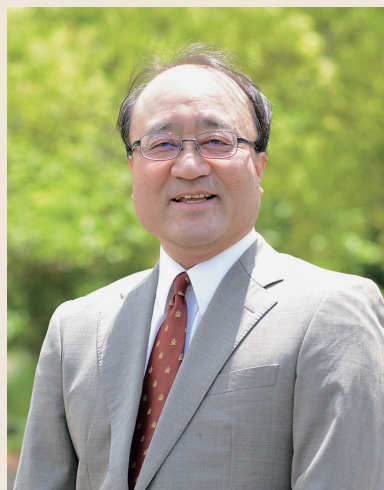


学部長からのメッセージ



岡山大学法学部長
河原 祐馬

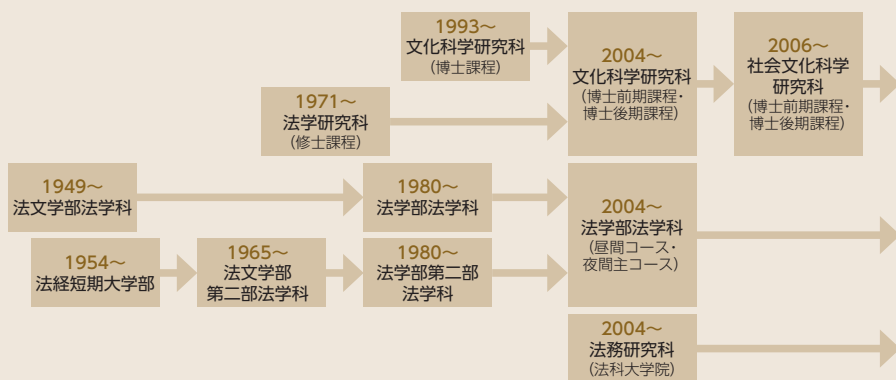
現代はポスト冷戦の時代と言われています。冷戦が終結してからはや30年近い月日が流れましたが、冷戦後の新たな秩序の形成をめぐる議論の中で脚光を浴びることになったのが、グローバル・ガバナンスという考え方です。この言葉を直訳すると「地球規模の統治」ということになりますが、その考え方の背景には、これまでの国家中心の国際秩序とは違って、たとえば、国連やNGO、多国籍企業や地方自治体といった国家以外の様々なアクターの存在を含めて、地球温暖化や放射能汚染などのいわゆるグローバル・ 이슈に有効に対処し得る協力のネットワークを構築しようという基本的な理念があります。また、こうしたグローバル・ガバナンスを下支えする議論として今日盛んに論じられるものとして、グッド・ガバナンスという考え方があります。これは、地域的もしくは国家的な規模のレベルにおいて、先進国が開発途上国における「よき統治」の構築プロセスを支援するという文脈の中で、グローバル・ガバナンスをめぐる議論としばしば結びつけられて論じ

られるものですが、こうしたグッド・ガバナンスの構築との関係で不可欠の前提となるものが法の支配に立脚した市民社会をめぐる伝統的な議論であると言えます。

法学・政治学という学問は、日本が明治維新の折に近代国家という政治制度を西欧から輸入して以来、こうした法の支配に立脚した市民社会の形成という問題と深く結びつけられつつ知的な発展を遂げてきており、それ故に、法学・政治学教育は、ガバナンスに関わる冷戦後の新たな国際秩序の形成をめぐる今日の一連の議論とも密接な関係性をもっています。岡山大学法学部は戦後、中四国有数の法学・政治学教育の拠点としての役割を担っており、これまで日本における法の支配と市民社会の形成を支える数多の人材を法曹や官公庁、民間企業等の各界に送り出しております。岡山大学法学部で学べることが、地域社会においてはもちろんのこと、ここで話しました冷戦後の新たなガバナンスの有り様にも大きく寄与するものとなることを願っています。

岡山大学法学部の沿革

岡山大学法学部の歴史は、岡山大学の創立に際し、中四国で初めての法学科として法文学部法学科が設立された1949年に始まります。1980年に法文学部の改組が行われ、法学科が分離し、現在の法学部になりました。法文学部法学科設立以来、一貫して法学・政治学の専門教育の拠点として、官界、実業界、教育界等の多方面に数多くの人材を輩出し、とりわけ法曹（裁判官、検察官、弁護士）の輩出は中四国では最多を誇ります。その後、2004年に大学院法務研究科が設置された際に、第二部法学科が夜間主コースに改組され、現在に至っています。



情報力・行動力・自己実現力

岡山大学法学部では、この3つを備え、グローバルに活躍できる人材の育成を目指しています。

教育内容・特色

現実社会で生起する諸問題に対して柔軟かつ適切な判断を行うため、法学および政治学を学ぶことを通して、以下の資質を備えた人材を育成します。

①人間性に富む豊かな教養【教養】

社会の多様な問題に対して関心を持ち、主体的な問題解決に向けての理論的思考力・判断力・創造力を有し、人間性や倫理観に裏打ちされた基礎的な教養を身につけている。

②リーガル・マインドの涵養【専門性】

法や政治等に関して実践的課題に対応できるリーガル・マインド（法的思考能力）を身につけ、社会に貢献できる。

③情報を科学的に分析する能力【情報力】

現代社会の諸問題について、その歴史性や国際的比較等多角的な視点から理解し、科学的に分析する能力を身につけ、それを効果的に情報発信できる。

④グローバル化および情報化する社会で活躍できるコミュニケーション能力【行動力】

コミュニケーション能力と情報活用能力を身につけ、的確に行動できる。

⑤課題を発見し、自ら判断し解決しようとする意欲と能力【自己実現力】

現代社会に生起する諸事象から課題を発見し、自ら判断し解決しようとする意欲と能力を身につけている。

求める学生

高校までの学習を通じて形成された学力を重視しつつ、社会に対する広範な関心を持ち、幅広い視点から柔軟にものごとを考えようとする学生や、世界の動きに関心があり、グローバルな視点を持って活躍したいという意欲のある学生の入学を求めています。

また、将来の職業との関係では、裁判官、検察官、弁護士などの法律専門職や公務員、民間企業などで活躍することを志望する学生を歓迎します。

入学後の学修のため、国語・外国語の2教科を中心に読解力、思考力、表現力を養い、まんべんなく基礎学力を積み上げ、着実に学習する態度を身につけていることが望まれます。